

第1回自家用操縦士等ヒューマンファクターズ訓練検討会議事概要

日 時： 2025 年 7 月 3 日（木） 14:00～16:00

場 所： 国土交通省（中央合同庁舎 3 号館） 7 階 A 会議室

議事次第に沿って、事務局から資料の説明を行い、意見交換を行った。委員からの主なご意見、ご指摘は以下のとおり。

（⇒は事務局の発言）

背景・設置趣旨・現行制度・ヒューマンエラーの発生状況

- 羽田空港の事故後に開催された第1回「羽田空港航空機衝突事故対策検討委員会」の時点で、CRM が機能していなかったのではないかと指摘が出ていた。事務局の資料にもあるとおり、航空事故等のうち 75%はヒューマンエラーに起因し、更にその 3/4 が操縦士に起因したものであることから、羽田空港の事故の発生にかかわらず、CRM 訓練が重要。既に導入済みのエアライン以外の操縦士にも義務化すべきである。
- 「Decision Making」の観点で、過去の事故例を「ヒューマンファクターズ訓練（CRM 訓練）」に活かす必要がある。
- ノンテクニカルスキルのレベルは測定が難しく、知識があつたとしても発揮できないこともある。ヒューマンファクターズ訓練を定期的に受講させることで定着させることが重要である。

課題と検討の方向性

- TEM（スレッド・アンド・エラー・マネジメント）の考え方はヒューマンエラー対策として有効であり、エアラインの操縦士でも定着している。日本航空機操縦士協会が実施しているセミナーでも「TEM/CRM セミナー」として行われていることから、訓練内容に TEM を取り入れるべき。
- 諸外国におけるヒューマンファクターズ訓練についても調査すべき。
- ヒューマンファクターなどの航空分野以外の専門家を含めて訓練内容や効果的な訓練方法を検討してもよいのではないか。

- 自家用操縦士がヒューマンファクターズ訓練を受講しやすくなるように、時間的・金銭的な配慮をして制度設計することが必要。
- これまでヒューマンファクターズ訓練を受講してこなかった自家用等の操縦士を対象に、できるだけ多くの方に受講してもらえるようにすることが重要であり、オンラインを最大限に活用すべき。
- 日本航空機操縦士協会がハイブリッド形式で実施している航空安全講習の受講者のアンケート回答では、オンラインでの講習の受講が3時間を超えると集中力がもたないとの意見が多いことに留意すべき。

| | |--------| | 今後の進め方 | |--------|

- 今後の開催予定：
 - 第2回（8月中旬）：JAPA等のセミナーのヒアリング結果を報告
 - 第3回（9月）：
 - 第4回（10月）：
 - 第5回（翌2月）：標準教材の骨子案の紹介

以上